



2019 Winter
新宿パークタワー
クリスマスコンサート

新宿パークタワーが贈るクリスマスコンサート。
高い天井の下、輝くクリスマス・ツリーとともに、
迫力あるオーケストラによるチャイコフスキーの名曲をお楽しみください。

TCHAIKOVSKY

チャイコフスキー：

《エウゲニ・オネーギン》op.24 - 第3幕よりポロネーズ

Pyotr Tchaikovsky : Eugene Onegin, op.24, Act III: Polonaise

チャイコフスキー：交響曲第5番 ホ短調 op.64

Pyotr Tchaikovsky : Symphony No.5 in E minor, op.64

指揮：澤橋 淳 *Conductor: Jun Sawahashi*

コンサートマスター：七澤 清貴 *Concertmaster: Kiyotaka Nanasawa*

セブン・ブリッジ・オーケストラ *Seven Bridges Orchestra*

主催：東京ガス不動産株式会社

2019年12月16日(月) / 入場無料

<1回目 / 12時~13時 2回目 / 18時~19時>

会場：新宿パークタワー 1F アトリウム



新宿パークタワー クリスマスコンサート

2019年12月16日(月) / 入場無料 1回目/12時~13時 2回目/18時~19時

主催:東京ガス不動産株式会社

曲目解説

■ チャイコフスキー:《エウゲニ・オネーギン》op.24 - 第3幕よりポロネーズ

《エウゲニ・オネーギン》は、ロシアの作曲家ピョートル・チャイコフスキー(1840-1893)が、37歳の時に書いた彼の代表的なオペラです。チャイコフスキーはこの頃、モスクワ音楽院の教師でしたが、私生活では結婚生活が破綻し、精神的にも追い詰められていました。しかし、彼は《白鳥の湖》や交響曲第4番など名作を次々と生み出しています。この作品は、ロシアの詩人・作家のプーシキン(1799-1837)の同名の小説をオペラ化したものです。舞台は19世紀ロシアのある農村。田舎娘のタチアーナは、妹の恋人レンスキーが連れてきたオネーギンに恋をするものの、全く相手にされません。ある宴でオネーギンは、居合わせた客人に陰口をささやかれ、その腹いせにタチアーナの妹ととばかり踊ったため、レンスキーの怒りを買ってしまいます。2人は決闘の末、オネーギンがレンスキーを殺害してしまい、自責の念から放浪の旅に出ます。数年後のある貴族の邸宅で行われた舞踏会で、侯爵夫人となったタチアーナと再会。今度はオネーギンが恋心を抱くものの、タチアーナが拒絶するという恋愛悲話です。この舞踏会で華麗に流れている音楽がこのポロネーズです。

■ チャイコフスキー:交響曲第5番 ホ短調 op.64

この作品は、チャイコフスキーの交響曲の中でも特に人気のある作品です。前作の第4番を書いていたのが、前述の《エウゲニ・オネーギン》の作曲と同時期。その11年後の48歳の時に完成させたのがこの第5番の交響曲です。第1楽章の冒頭の「運命の主題」がすべての楽章に現れ、最後の楽章で運命に打ち克ち、勝利に導かれるというストーリーになっています。

◇ 第1楽章:Andante - Allegro con anima ホ短調 4/4拍子 - 6/8拍子
序奏部の冒頭でクラリネットが「運命の主題」を吹きます。主題部に入ると、弦楽器群の行進するようリズムの上で、クラリネットとファゴットが民謡風の第1主題を歌います。咽び泣くような第2主題、明るく美しく歌う第3主題など、次々に魅力的なメロディで曲を盛り上げ、最後は第1主題を繰り返しながら静かに終わります。

◇ 第2楽章:Andante cantabile, con alcuna licenza 二長調 12/8拍子
弦楽器によるコラール風の暗い前奏の後、ホルンの甘美な第1主題のメロディがまずは聴きどころです。テンポを少し上げて歌うオーボエの第2主題、その後、チェロが再び第1主題を朗々と歌います。中間部でクラリネットが切なく歌う第3主題、緊張感を保ちながら盛り上がったところで「運命の主題」がfffで突然鳴り響き、全てを打ち消します。再び各主題が奏された後、最後は第2主題の断片が繰り返され静かに終わります。

◇ 第3楽章:Valse. Allegro moderato イ長調 3/4拍子

バレエ音楽の名作を次々と生み出したチャイコフスキーならではの優美なワルツ。中間部では細かい動きがコミカルに提示され、スピード感あふれる音楽となっています。最後は「運命の主題」が再び顔を出します。

◇ 第4楽章:Finale. Andante maestoso - Allegro vivace ホ長調 4/4拍子 - 2/2拍子

「運命の主題」が長調で堂々と提示されます。ティンパニがクレッシェンドしたあと、アレグロの音楽に変わり、力強い主題が弦楽器によって奏でられます。複数の主題が絡み合いながら曲は進み、最後は「運命の主題」が凱旋行進曲となって曲を閉じます。



指揮:澤橋 淳 Conductor:Jun Sawahashi

東京学芸大学大学院修士課程(音楽学)修了。これまで指揮を崎田俊治、村方千之、湯浅勇治、ハンス・グラーフ、アンドレイ・アニハノフの各氏に師事。2009年サント・ペテルブルク国立アカデミー交響楽団を指揮。2007年に七澤清貴氏とともにセブン・ブリッジ・オーケストラを結成し、新宿パークタワーでの公演は今回で19回目を迎える。



コンサートマスター:七澤 清貴
Concertmaster:Kiyotaka Nanasawa

東京藝術大学付属音楽高校、同藝術大学、パリ・エコールノルマルを全て首席で卒業。多久興、海野義雄、ブロードス・アール、ルイ・グレーラー、マックス・ロスタル、フォンタナローザの各氏に師事。スイスにてロスタルコンクール第1位。スイス ビエール市立交響楽団で3年間コンサートマスターを務め、帰国後、神奈川フィルハーモニー管弦楽団で20年間コンサートマスターを務める。ソロ、室内楽でも全国的に活躍。アンサンブル・ソノール代表。



セブン・ブリッジ・オーケストラ Seven Bridges Orchestra

クラシック音楽をより多くの方に伝えるために2007年に結成。東京オペラシティや新宿パークタワーのアトリウムコンサートに出演。国内外で活躍する若き少数精鋭メンバーでクオリティの高い音楽を目指す。

※1970年代、淀橋浄水場跡地に7棟の超高層ビルが建設されたことで発展してきた西新宿は、その後も次々とビルが建設され、現在は日本を代表する超高層ビルの街となりました。このオーケストラ名の由来は、西新宿のさらなる活性化のために、ビルのアトリウムを中心にオーケストラが巡回演奏することで、人の交流の橋渡しをしたいという思いから「セブン・ブリッジ」と名付けられました。

〈会場〉新宿パークタワー 1F アトリウム

□ お問い合わせ:新宿パークタワー総合案内
東京都新宿区西新宿3-7-1 TEL:03-5322-6640
<https://www.shinjukuparktower.com>

□ 交通アクセス
JR新宿駅南口から徒歩約12分
西口エルタワー前より約10分間隔で無料バス運行

